

# 正泉寺・五郎田遺跡 発掘だより

第5号 2025.1.24

## 令和6年度の調査を終了しました

4月から開始した発掘調査は12月末をもって終了しました。今年度は、国道153号に接する五郎田遺跡5区と正泉寺遺跡1区、その北西側の2区、3区で発掘調査を行い、さらに県道市場桜町線までの間で確認調査を行いました。1～3区(2,500㎡)の発掘調査では、古墳時代、奈良・平安時代の<sup>たてあな</sup>竪穴建物跡70軒、<sup>ほったてばしら</sup>掘立柱建物跡1棟、土坑196基が後世のかく乱で破壊された部分があるものの、ほぼ全面に重なりあって見つかりました。また、それらの中には<sup>ほうけいしゅうこうぼ</sup>弥生時代と考えられる溝跡があり、形状から方形周溝墓の一部と考えています。遺物も多数出土し、古墳時代や奈良・平安時代の<sup>はじき すえき</sup>土師器、須恵器などはもちろん、縄文土器や弥生土器の破片もありました。他に、<sup>だ せい せき ぞく</sup>打製石鏃、<sup>ませい</sup>磨製石鏃、<sup>せき ぶ</sup>打製石斧、<sup>とし うすだま</sup>磨製石斧、砥石、臼玉などの石器や石製品、<sup>じ かん</sup>金属製品として耳環が3点みつかり、出土した遺物は、コンテナ69箱分になりました。五郎田遺跡5区(200㎡)では、古墳時代の竪穴建物跡1軒、土坑6基が見つかり、遺物は土器や石器がコンテナ2箱分になりました。



正泉寺遺跡・五郎田遺跡 全景

# 調査のようす



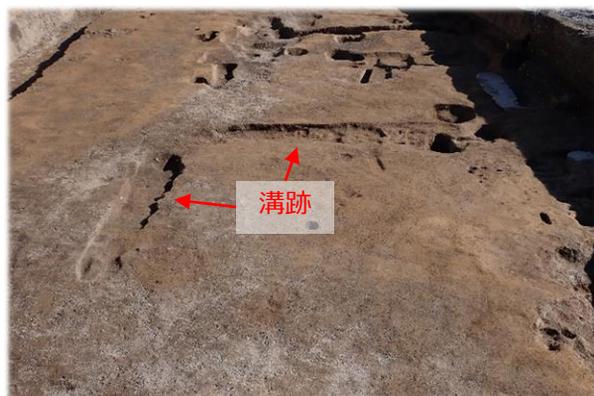
竪穴建物跡の床面に集中する土器

カマドの反対側の壁付近から、坏部と脚部の接合部で割られた高坏10個体や坏、小形の甕、甔がまとまって出土しました。熱を受けた痕跡もあり、屋内儀礼のあり様を推測できる貴重な資料になります。



重なりあって見つかった遺構

飯田地域にカマドが導入された古墳時代中期から、平安時代にかけての竪穴建物跡や掘立柱建物跡、多数の土坑が重複してみつきり、調査はとても困難でした。



弥生時代の溝跡

古墳時代の遺構の下から、弥生時代の方形周溝墓の可能性ある溝跡がみつかりました。弥生時代は墓域であった可能性が考えられます。



五郎田遺跡と正泉寺遺跡

国道153号をはさんだ東側の五郎田遺跡では、古墳時代の竪穴建物跡や土坑がみつかり、正泉寺遺跡と連続する集落域であると思われます。

## 発掘された飯田～2024年度飯田市発掘速報展～

場所：飯田市考古博物館エントランス  
期間：3月4日（月）～5月6日（火）

出土品を展示します。  
この機会に、是非ご覧ください。  
詳細は、広報いいだ・市ホームページへ



発掘期間中は、ご理解、ご協力いただき、ありがとうございました。  
現在、飯田支所で出土した遺物や写真、図面の整理作業を行っています。

## 長野県埋蔵文化財センター 飯田支所

〒395-0151 飯田市北方297-5

電話：0265-49-0736

メール：[maibun@naganobunka.or.jp](mailto:maibun@naganobunka.or.jp)

H P：<https://naganomaibun.or.jp/>

担当：長谷川/綿田/島田/遠藤